

ミナミアオカメムシの生態と防除について

ミナミアオカメムシの発生は、四国では高知県に限られていましたが、平成17年頃から分布域の北上が確認され、平成20年には本県でも発生が確認されました。これは地球温暖化により最寒月の平均気温が上昇したことが一因（大野, 2007など）と考えられています。

水稻では、成虫、幼虫が稲の開花直後から収穫時までの全期間を通じて加害します。穂を吸汁して斑点米を作り出す能力は、カメムシ類の中で最も高いとされています。米の検査規格では、斑点米率が0.1%を超えると2等、0.3%を超えると3等、0.7%を超えると規格外となります。また、大豆では着莢部に寄生し莢内の子実を吸汁するため、莢は落ちるか肥大せずに緑色のまま残ることがあります。



水稻での発生状況（10月上旬）

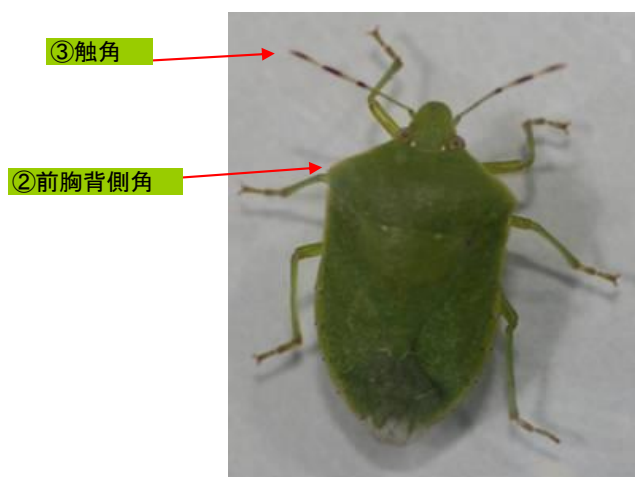


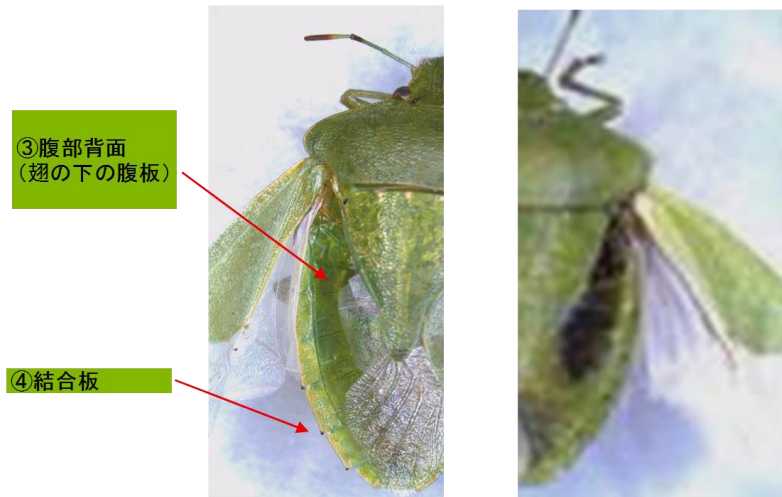
大豆での発生状況（10月上旬）

形態

- 1) 卵、幼虫：卵は80卵ほどの卵塊で、寄主植物の葉裏などに生み付けられます。また、幼虫は4回脱皮し5齢を経過します。
- 2) 成虫：体長12～16mmでツヤのない緑色をしています。従来から見られる「アオクサカメムシ」によく似ています。
- 3) アオクサカメムシとの区別点

番号	ミナミアオカメムシ	アオクサカメムシ
①体色・体型	ツヤのない緑色で、体型はアオクサより縦長。	ツヤのない緑色（ミナミアオと同様に黄帯型、緑斑型等の色彩型がある）
②前胸背側角	側角の先端は丸く、革質部外縁よりほとんど突出しない。	側角の先端は少し尖り、革質部外縁よりかなり突出する。
③触角	第3、4、6節に褐色部がある。	第3、4、5節に黒色部がある。
③腹部背面 (翅の下の腹板)	一様に緑色	基部2～4節は黒～黒褐色で、他は緑色（まれにミナミアオのような緑色の個体がいる）
④結合板	緑色で外縁後部のみ小黒点がある。	緑色で外縁後部および各節中央後端部に小黒点がある。





生態

1) 発生生態

越冬成虫は4月上旬から活動を始め、麦、アブラナ科植物、タデ科やイネ科の雑草に飛来して産卵します。宮崎農試報告によると卵及び幼虫の期間は、25℃で飼育した場合約33日で、アオクサカメムシの約39日（24℃）より早くなっています。成虫の寿命は越冬期で約7ヶ月、夏期は約50日です。また、雌は2～3卵塊で合計170個くらい産卵します。

本県で発生量が増加するのは9月下旬～10月と予想され、これは早期水稻で生まれた第2世代の成虫が普通期水稻に移動して増殖するためと考えています。

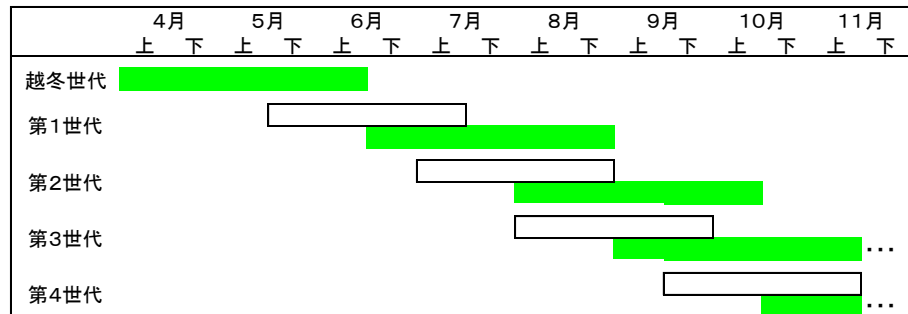
2) 寄主植物について

寄主植物はアオクサカメムシと共通するものも多いですが、嗜好性には差があり、アオクサカメムシはマメ科をミナミアオカメムシはイネ科を好むとされています。

また、成虫はイチジクやビワなどの果実にも寄生します。

3) 越冬について

ミナミアオカメムシは、9月下旬～1月上旬に越冬場所へ移動し、成虫で越冬します。越冬場所は枯れたイネ科植物で覆われた地表付近や落ち葉の間、ハクサイなどの葉の間、シュロなど常緑樹の葉鞘の内側などで、風当たりや温度差が少なく、体水分の消失を防ぐかその補給ができる場所です。

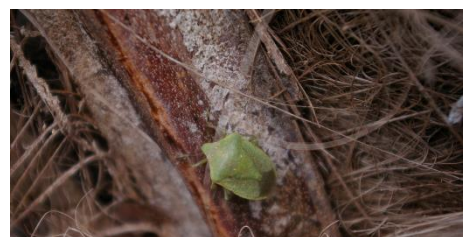


注) □ 卵、幼虫の期間 ■ 成虫の期間

ミナミアオカメムシの世代回数と発生時期(宮崎農試報告から作成)

ミナミアオカメムシの主な寄主植物(桐谷, 1970から作成)

分類	作物名
イネ科	稲、麦類、アワ、サトウキビ、トウモロコシ
マメ科	大豆、ソラマメ、エンドウ、ササゲ
野菜	ダイコン、オクラ、パセリ、ニンジン、サツマイモ、ナス、トマト、ジャガイモ、スイカ
果樹	イチジク、ビワ、モモ、ミカン、ブドウ、カキ、ウメ、ナシ
花き	ヒマワリ、グラジオラス、ヒオウギ
その他	タバコ、アルファルファ、ソバ、ワタ、ケナフ、ゴマ



シュロでの越冬状況(2月上旬)

防除対策

水稻の出穂期と出穂後の防除を行いましょ！

- 1) 畦畔等圃場周辺の除草を行い、カメムシ類の発生源を少なくしましょう。ただし、出穂直前に行くと、カメムシ類の圃場への移動をうながすことになるので、雑草の刈り取りを行う場合は、出穂7～10日前に行います。また、休耕地はミナミアオカメムシの繁殖場所になるので、除草や耕起等によって雑草の少ない状態を保ちましょう。
- 2) 薬剤防除の時期は、液剤や粉剤等の場合は出穂期頃とその10～15日後であり、粒剤の場合は7日程度早めて散布します。なお、穂揃期以降にミナミアオカメムシが水稻で繁殖している場合は、粒剤よりも速効的で効果が高いとされる液剤や粉剤の使用が望ましいです。
- 3) 防除効果を高めるために地域一斉防除に努めるが、適用作物や収穫前日数などの使用基準を遵守します。なお、休耕地に使用できる薬剤もあります。

水稻の斑点米カメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準

(香川県農業情報システムより抜粋し、2019年8月6日現在の基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード ¹⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	2 1 / 2	MEP(フェニトチオン)	1B
スミバツサ乳剤75	1,000倍	2 1 / 2	BPMC(フェノ ⁺ カルブ ⁺) MEP(フェニトチオン)	1A 1B
トレボン乳剤	2,000倍	1 4 / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	1 4 / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3～4 kg	7 / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
ベストガード粉剤DL	4 kg	1 4 / 4	ニテンピ ⁺ ラム	4A
ダントツ粒剤	3～4 kg	7 / 3	クロチアニジン	4A
ダントツフロアブル	5,000倍	7 / 3	クロチアニジン	4A
ダントツ粉剤DL	3～4 kg	7 / 3	クロチアニジン	4A
ダントツH粉剤DL	3～4 kg	7 / 3	クロチアニジン	4A
アルバリン粒剤	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル粒剤	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル液剤10	1,000倍	7 / 3	ジノテフラン	4A
アルバリン粉剤DL	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル粉剤DL	3 kg	7 / 3	ジノテフラン	4A
スタークル豆つぶ	250 g	7 / 3	ジノテフラン	4A
キラップ粒剤	3 kg	1 4 / 2	イフ ⁺ ロール	2B
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	1 4 / 2	イフ ⁺ ロール	2B
キラップ粉剤DL	3～4 kg	1 4 / 2	イフ ⁺ ロール	2B

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

休耕地のカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準¹⁾

(香川県農業情報システムより抜粋し、2019年8月6日現在の基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード ²⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	— / 4	MEP(フェニトチオン)	1B
トレボン乳剤	2,000倍	— / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	— / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3～4 kg	— / 3	イトフェン ⁺ ロックス	3A
ダントツ水溶剤	4,000倍	— / 4	クロチアニジン	4A
ダントツH粉剤DL	3～4 kg	— / 4	クロチアニジン	4A

1) ヨシ、オギ、ススキ、セイヨウアザミ等の多年生雑草が優占している休耕地。

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。